

「市場原理に揺れるアメリカの医療」

マサチューセッツ総合病院内分泌部門
ハーバード大学医学部助教授

李 啓充 著

東海大学医学部長

黒 川 清

「市場原理に揺れるアメリカの医療」がついに一冊の本として出版された。“ついに”と私が言うのは、実はこのシリーズが1996年から医学書院発行の「週刊医学界新聞」に連載されたときから大変おもしろく、その内容の正確さに感心して毎回非常に興味を持って読んでいたからである。しかもこれはまさにアメリカの医療の改革における、いわゆる“マネージドケア”の導入から始まり、それに対して大学あるいは病院が急速に対応を行ってきた時期にこの連載が始まっているからである。

著者の李先生はハーバード大学で研修・研鑽を積み、現在助教授としてご活躍の方であるが、このアメリカの医療を巡る多くの経済的な動きやビジネスの動き、それに対する医療現場での色々な問題、社会的な問題、更に患者と医者との関係、病院との関係などについての多くの問題点や苦悩を、極めて正確にしかも臨場感溢れるタッチで書いている。私はその都度コピーをとっていたが、出版元あるいは著者にこれは必ずいつか一冊の本にして出してもらおうと思うていたぐらいであり、これがいいよまとまって出版されたことは大歓迎である。しかも著者のいるボストン周辺でのいろいろな医療に関する話題、例えば「あるガン患者の手記」や「ダナ・ファーマー事件」「スター選手の死」などが極めて興味深く書いてある。日本での医療現場の人にはなかなか

からない、そして理解できないこともあるかもしれないが、私のように長年アメリカの現場にいた者にとっては誠に身にしみるような筆の進め方であり、おもしろい読み物になっている。

この本のすばらしい所で、ここに書いてあることが非常に今日的でもある理由の1つは、いよいよ日本でも医療制度の開拓が叫ばれ、行政も与党も日本医師会も改革案を示していることに表れている。急速に悪化する日本の経済状況、急速に高齢化してくる社会と医療費の増大などから昭和36年以降の国民皆保険がいよいよ行き詰まっていることに対して大きな改革を迫られているところにある。皆さんも毎日の診療あるいは教育の現場でも、従来のような教育あるいは研修から全く違って、これからは効率の良い、しかも質の良い医療を提供しなければならず、これらを考える上で常に“経済”を考えなければいけないということが現実的になってきたからである。日本のいろいろなシステムは異なる文化的、歴史的背景があるにしても、世界の他の国と同じようにやはりアメリカの経験、システムを分析してそれを修正しながら取り入れてくることが重要である。この点ではアメリカで急速に導入され、それなりの問題を含みながら現在、修正過程に入ってきているいわゆる“マネージドケア”が、いよいよ日本にも西暦2000年を目指して導入され

つある現在、李先生のこの本が出版されたことは誠にタイムリーであろう。われわれ医療にかかわる者、また医学教育にかかわる者、そして医学の研修、医療現場にかかわるすべての人にとって大変参考になるおもしろい読み物と言える。

このような改革の波が襲いかかるときに、日本は何をするのかということがいつも問題になる。日本特有の文化、今までのシステムとかなり違うなどなどいろいろな理由を言いながら、なかなか変わらないといっていることが多いこのごろではないだろうか。これは何も医療だけではなく、金融システムの問題、官僚の腐敗の問題、官民の癒着問題等々にも表れている。医療の改革にしても、しなければならないけれど何もできないという悩みの根本は、実は“決断力”と“決心”と“変わりたくない”といういろいろなファクターによって、欲求不満こそ積み上がってくるものの、なかなか決断ができないというすべての分野での共通の問題として認識できるであろう。この本は大変参考になる読み物であり、日常の研究や診療で恐らく多忙であろう著者がその合間にこれだけわれわれの参考になるものを書いてくれたことに感謝し、これからの更なるご活躍を心から期待したい。

● A5 頁200 写真18 1998
定価(本体2,200円+税) 円400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)